

## 飯南町への想い

### 飯南町に住んで

飯南町角井 後長 恭弘

私は平成四年、高校を卒業し広島県の郵便局に就職しました。

十一年間向こうで働き、平成十五年四月、飯南町に帰って来ました。

子どもの頃からいづれは自分が後を継ぐ、と言う思いはありましたが、広島島の暮らしに慣れると、

先々帰ればいい、そう考えるようになりました。

ところが両親が病気になり、転勤願いを出すことに…考える余地なくUターンとなりました。

生まれ育った町とはいえず、久しぶりの実家での暮らしに妻といるんな抱え帰りました。

そんな心配をよそに地域の人、職場の人達は温かく迎え入れてくれました。

初めての顔、懐かしい顔、みんな気軽に声をかけてくれ、自然と輪のなかに入っていけました。

妻も平成十六年から簡易郵便局をお世話していただき、地域の方々に可愛がってもらっています。今では妻の方が顔が広くらいです。

保育所、小学校の保護者会も沢山の方と出会う、家



後長さんの家族



動物園で

族ぐるみの付き合いをさせてもらっています。

昨年三人目の子どもに恵まれ、家のなかも一段とにぎやかになりました。

自分が生まれ育った土地、大きくなっていく子どもたち。自分が子どもの頃とはいろいろなことが変わってきていますが、自然と人の温かみあふれるこの土地で多くの事を学んでほしいと思います。



## 島根県町村議会 議員研修会

十月一日、松江市「タウンプラザしまね」で県内十三町村の町村議会議員が一同に会した研修会が行われました。

研修会では牧瀬 稔（財）地域開発研究所研究員の、「議員が提案する政策条例のポイント」と題し、午後からは板垣英憲政治経済評論家の「マスコミにでない政治経済の裏話」と題し講演がありました。

急速な社会情勢の変化に対応するため、政策立案など地方議会の果たすべき役割と今後の議会の活性化に向け、実のある研修となりました。

## 編集後記

大河ドラマ「篤姫」を視聴しているが、最近にない傑作だ。

激動の明治維新より一四〇年が経過しているが、その時代に生きた篤姫を通して、時代の苦悩、日本人の世界観、エネルギーシユな人間像が今求められる、国家観とラップして面白い。

麻生太郎総理と小沢一郎民主党代表との政策論争も、既存の国会ルールを破った所信表明、質問がなされ変革の時代の到来を告げている。

さて、九月定例会は、八人の議員が一般質問に立ち、その内四人が農業、農村の厳しい現状視點にたち、論戦を行った。

また、会期中にJA雲南の志々、赤名、谷地区の三箇所の出張所廃止についての協議もあり、まさに農村の正念場だ。

地域の生活をまもる立場であったJAが、自らの組織をまもるため足きりを行い、その使命を失っていくところとしている。

地域の生活をまもるための、真の生活協同組合を樹立していく視點が今後議会での大きなテーマと考えられます。

議会広報編集委員会

（本田 哲三）